

埼玉県八潮市の道路陥没事故を受けた 北九州市独自の点検結果について(報告)

令和7年1月28日に埼玉県八潮市内において下水道管の破損に起因すると考えられる道路陥没が起き、トラック1台が巻き込まれるとともに、約120万人に下水道の使用自粛が呼びかけられるなど、大きな影響が発生した。

この事故を受け、「市民の安全・安心」の確保を図るため、直径2m以上の下水道管の一部を対象に地中レーダーを活用した独自点検を実施してきたが、この度、点検結果がまとまったため、お知らせするもの。

1 点検期間

- ・ 令和7年2月4日～4月30日

2 対象施設

- ・ 北九州市が管理する直径2m以上の下水道管のうち、
 - ① 浄化センターに接続する耐用年数50年を経過した管
 - ② 腐食の恐れが大きい管
- に該当する約5kmの管が埋設されている道路

3 点検方法

- ・ 地中レーダーを搭載した空洞探査車両を使用し実施

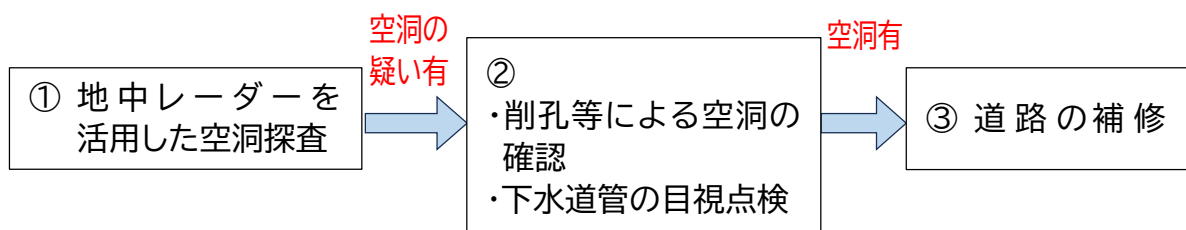
4 点検結果と対応

- ・ 下水道管の破損に起因する空洞は確認されなかった
- ・ 雨水の影響などが原因と想定される小規模な空洞を複数確認
- ・ 点検結果については、道路管理者（都市整備局）と情報共有するとともに、区役所のまちづくり整備課に依頼し、5月上旬までに全て補修を完了

5 今後の取組

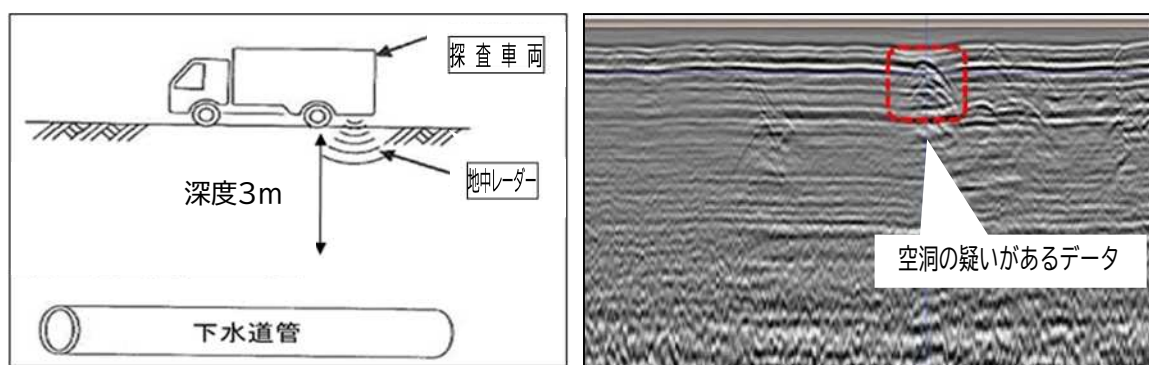
- ・ 今後、下水道管は急速な老朽化が見込まれているため、高速で鮮明な撮影が可能なカメラやドローン、AIなどの新技術も活用しながら点検を効率化し、引き続き、リスクの高い箇所の更新に取り組む

○地中レーダーを活用した独自点検の流れ



<① 地中レーダーを活用した空洞探査>

- ・ 直径2m以上の下水道管の一部(約 5 km)が埋設されている道路に、地中レーダーを搭載した探査車両からレーダー(電磁波)を照射し反射波を解析することで、空洞の疑いがある箇所の検知を行う



空洞探査イメージ

<② 削孔等による空洞の確認>

- ・ 空洞の疑いがある箇所を対象に、道路に直接穴をあけ空洞の有無を確認するとともに、下水道管の目視点検を実施



削孔による空洞の確認イメージ
(削孔後、カメラで空洞確認)

<③ 道路の補修>

- ・ 空洞が確認された箇所については、道路を掘削し土砂などで埋め戻す